

## 長岡中央総合病院の各種がんの県内占有率と 集検発見率の検討

藤田 幸代<sup>1)</sup> 田野 千春<sup>1)</sup> 田中 美津子<sup>1)</sup>  
諏佐 成人<sup>2)</sup> 原 敬治<sup>2)</sup>

平成3年4月、新潟県がん登録事業が発足、同時に当院では病歴室において院内登録を開始した。平成3年から平成6年の院内登録数は2,508人であった。このデータを基に、新潟県の平成3年の公表値と比較し、各種がんの新潟県における当院の含有率と集検により発見された癌の比率を算定した。性別では男性1,558人、女性950人。部位別では、胃が一番多く、次いで大腸、肺、乳房、食道の順であった。人間ドックや集団検診が契機となって来院した患者の比率は25.2%、平成3年の新潟県の癌の部位別構成比率と当院の比率を比べた含有率では消化管癌、泌尿器系癌で当院が高い比率を示していた。

がん登録 がん含有率 集検発見率

### はじめに

平成3年4月より新潟県がん登録事業が実施された。がん診断時に新潟県に在住していた患者、および県内に住所を有するがんによる死亡者が対象となる。県内の医療機関は所定の届出票によりがん患者の届出を行う。これを機に当院でも退院患者をはじめ、外来のみの患者も登録もれのないように、病院で指定した一医師により、県に届出、同時に病歴室において院内登録を開始した。

### 方法と対象

この度、平成3年、1年間に診断された新潟県のがんについての集計が報告された<sup>1)</sup>。また、院内登録も4年を経過した。この機会に当院のデータを基に、新潟県の平成3年の公表値と比較し、各種がんの新潟県における当院の含有率と集検により発見された癌の比率を算定した。院内登録患者のうち、診断年月日、平成3年1月1日から平成6年12月31日までの4年間、2,508人を対象とした。

### 結 果

#### 1. 部位別患者数 (表1)

部位別患者数では、胃が一番多く808人(32.2%)、次いで大腸442人(17.6%)、3位は肺234人(9.3%)、4位乳房131人(5.2%)、5位食道105人(4.2%)であった。食道も含めた消化管で全癌の半数以上の54%を占めていた。続いて6位前立腺84人(3.3%)、膵臓74人(3.0%)、肝臓と胆嚢・胆管は同数で71人(2.8%)であった。

当院の癌患者を性別でみると、男性1,558人、女性950人で、男女比は1.64:1となる。男性は1位の胃が555人(35.6%)を占め、次いで大腸272人(17.5%)、肺180人(11.6%)、食道94人(6.0%)、前立腺84人(5.4%)、膀胱51人(3.3%)、肝臓48人(3.1%)の順であった(図-1)。

女性も1位、2位は男性と同様で、胃253人(26.6%)、大腸170人(17.9%)であった。3位は乳癌131人(13.8%)、次いで子宮62人(6.5%)、肺54人(5.7%)、胆嚢・胆管44人(4.6%)、卵巣38人(4.0%)、甲状腺36人(3.8%)の順であった(図-1)。男性は女性に比べ、食道、肺、膀胱の比率が高く、女性は男性に比べ、甲状腺、胆嚢、胆管の比率が高かった。

最も多い胃は平成3年35.8%から平成6年30.2%に減少していた。肺は7.9%から11%に増加していた。乳房も平成3年4.4%から平成6年6.9%に増加していた。その他、食道、肝臓、膵臓も増加傾向を示していた。

1) 長岡中央総合病院 病歴室  
2) 長岡中央総合病院 健診センター

た(図2, 3)。

2. 集検により発見された癌

当院の胃、大腸、肺、子宮、乳房の院内登録数は1,677人、このうち集団検診や人間ドックなどが契機となって来院した患者は422人で比率は25.2%となる。新潟県の各部位の集検発見率を当院と比較すると、子宮をのぞき、県平均を上回り、特に大腸では県平均を大幅に上まわっていた(図-4)。

集検により発見された癌の比率を年次別にみると子宮が平成3年41.7%から平成6年20%に減少、胃も平成3年36.9%から平成6年22.8%に減少していた。県平均を大幅に上回った大腸は平成3年27.2%から平成4年17.4%に落ち込んだものの、平成5年27.1%、平成6年26.6%とはほぼ同率であった。乳房は平成3年3.7%から平成6年15.9%に増加していた(図-5)。

3. 部位別癌の含有率(図-6)

平成3年に診断された新潟県のがんの総数は、10,491人であった(表-1)。うち平成3年の当院の届出数は620人で、新潟県全登録数の5.9%にあたる。新潟県と当院の各部位別患者数を比較すると、1位胃、

図1

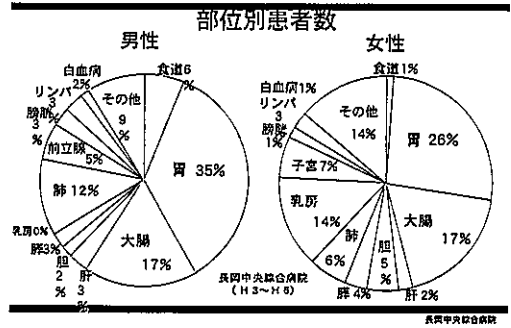


図2

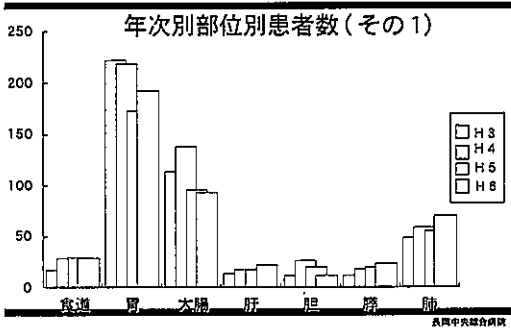


図3

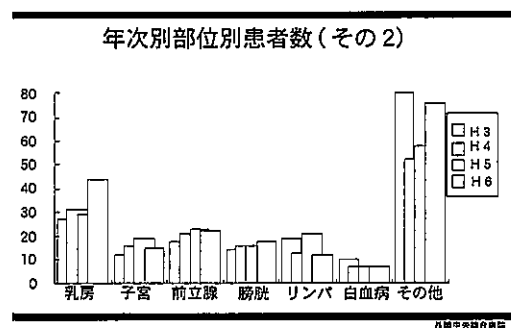


図4

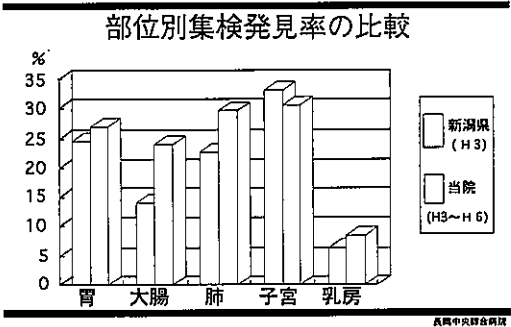


表1 主要部位別患者数

部位	H3 新潟県		当院 (H3 - H6)			
	患者数	(%)	患者数	(%)	男 患者数 (%)	女 患者数 (%)
総計	10,491	100.0	2,058	100.0	1,558 (100.0)	950 (100.0)
食道	361	3.4	105	4.2	94 (6.0)	11 (1.2)
胃	2,942	28.0	808	32.2	555 (35.6)	253 (26.6)
大腸	1,663	15.8	442	17.6	272 (17.5)	170 (17.9)
肝	391	3.7	71	2.8	48 (3.1)	23 (2.4)
胆	512	4.9	71	2.8	27 (1.7)	44 (4.6)
膵	426	4.1	74	3.0	41 (2.6)	33 (3.5)
肺	1,301	12.4	234	9.3	180 (11.6)	54 (5.7)
乳房	509	4.9	131	5.2		131 (13.8)
子宮	305	2.9	62	2.5		62 (6.5)
前立腺	231	2.2	84	3.3	84 (5.4)	
膀胱	188	1.8	64	2.6	51 (3.3)	13 (1.4)
リンパ	262	2.5	65	2.6	40 (2.6)	25 (2.6)
白血病	166	1.6	31	1.2	24 (1.5)	7 (0.7)
その他	1,234	11.8	266	10.6	142 (9.1)	124 (13.1)
(甲状腺)			43	1.7	7 (0.4)	36 (3.8)
(卵巣)			38	1.5		38 (4.0)

(新潟県のがん登録 平成3年標準集計より)

図5

部位別集検発見率の年度推移

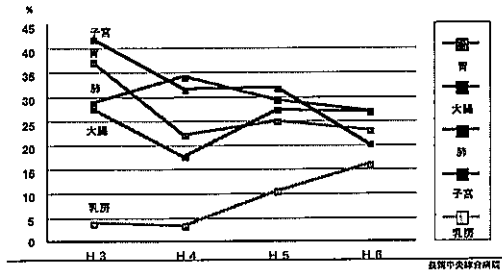
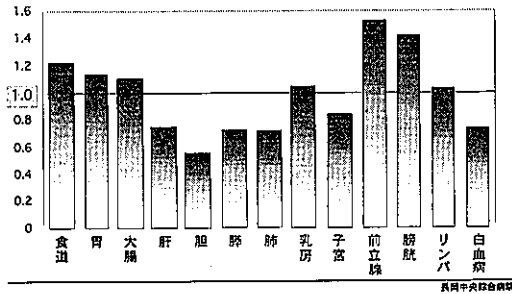


図6

部位別癌の占有率



2位大腸、3位肺は変わらず、4位は県は胆嚢・胆管、当院は乳房。5位県は乳房、当院は食道となった。新潟県の各部位別癌の構成比率を1として、当院のそれぞれの構成比率と比べて、県内における当院の部位別癌の構成比率を1として、当院のそれぞれの構成比率と比べて、県内における当院の部位別癌の含有率とした。1を新潟県の水準とすると、当院では、食道1.24、胃1.15、大腸1.11と消化管はやや高く、肝0.76、脾0.73、肝臓0.57および肺0.75は低く、前立腺1.55、膀胱1.44と泌尿器系は高い含有率を示していた。

考 察

平成3年に診断された新潟県の癌患者は10,491人、当院の平成3年から平成6年の4年間の院内登録数は2,508人であった。患者数の順位では上位3位までは県と変わらず、胃、大腸、肺であった。厚生省統計情報部で3年に1度行われる患者調査より、昭和55年から平成2年の部位別癌の増減をみると、胃、子宮は、はっきりと減少傾向を示していた。急激な増加がみられたのは肝臓、前立腺であった。脾臓、大腸、肺も増

加傾向を示していた。当院においても同様の傾向がみられた。しかし、胃は依然として1位であり、院内登録数の約1/3をしめた。

当院の4年間の院内登録数のうちの集検により発見された癌の比率が1番大きかったのは子宮で30.6%、次いで肺29.5%、胃は26.9%、大腸24.0%であった。県を大幅に上回った大腸の集検による発見率の4年間の比率の変動は、当院が昭和63年より実施した大腸癌検診受診者数の伸びに追随し、一時的に患者数の増加によって、集検高発見率を招いたものと思われる。集検発見率は乳房をのぞき低下していたが、同一人の繰り返し受診によるものと思われる。

新潟県癌登録が平成3年4月に開始され、初年度の集計が報告された。届出精度を意味するI/D(罹患と死亡の比)は年の途中の開始にしては高い届出精度とのことであり、この集計報告数値を基準にして、当院の院内登録数を比較し、当院の特性をみた。当院の平成3年の届出数は620人で新潟県の全登録数の5.9%にあたる。新潟県の各部位別構成比率を1として、当院のそれぞれの構成比率を比較した癌の県内含有率は消化管ではやや高く、肝、胆、脾では低かった。明らかに高い比率を示した泌尿器系癌では当院の平均的診療圏よりも広い地域からの患者が多くみられた。

ま と め

- 1) 平成3年新潟県癌登録が実施され、同時に院内登録を開始した。
- 2) 平成3年から平成6年の4年間に当院で診断された癌は2,508人、男性1,558人、女性950人であった。
- 3) 部位別では、胃が1番多く、2位大腸、3位肺、4位乳房、5位食道の順であった。
- 4) 人間ドッグや集団検診が契機となって来院した患者の比率は25.2%であった。
- 5) 平成3年の新潟県の癌の部位別構成比率を基に当院の比率を比べた含有率では消化管癌、泌尿器系癌で高い比率を示していた。

参 考 文 献

- 1) 新潟県のがん登録(平成3年標準集計)平成6年12月
- 2) 患者調査に基づく推計総患者数、傷病小分類・年次別 厚生の指標 1993; 40(5): 29-35

## The Ratio of Cancer in Koseiren Nagaoka Chuo General Hospital to Cancer in Niigata Prefecture as a Whole and the Rate of Detection by Multiphasic Health Check-ups

Yukiyo Fujita<sup>1)</sup>, Chiharu Tano<sup>1)</sup>, Mitsuko Tanaka<sup>1)</sup>,  
Naruhito Susa<sup>2)</sup>, and Keiji Hara

<sup>1)</sup> Clinical History Room and <sup>2)</sup> Multiphasic Health Screening Center,  
Nagaoka Chuo General Hospital

Since the cancer registry service was established in Niigata Prefecture in April 1991, Koseiren Nagaoka Chuo General Hospital has been compiling cancer records in the Clinical History Room and 2,508 cancer patients were registered during the period 1991-1994. The data obtained in Nagaoka Chuo General Hospital were compared with those reported in Niigata Prefecture as a whole to calculate the ratio of cancer in the hospital to that in Niigata Prefecture. The rate of cancer detection by multiphasic health check-ups was also calculated. The patients consisted of 1558 males and 950 females. The most common site of cancer was the stomach, followed by the colorectum, lungs, breast, and esophagus, in that order. Patients who visited this hospital for detailed examination based on the results of multiphasic health check-ups or mass screenings accounted for 25.2%. The ratios of gastrointestinal and urological cancers in our hospital to those in Niigata Prefecture were high.

Key words: Cancer registry, Cancer frequency, The rate of cancer detection by mass screenings